

雪が降る頃に帰ります

小太刀君枝

岐阜県・一九・学生

あなたに逢えなくても、頑張つて生きています。傍にいた時はいるのが当り前で、愛してる気持ちも薄れていたのではないかと思うけれど、離れて気がついた事は、星の数ほどあると思います。でもそれをあなたに、すぐに伝えられないのがとてもくやしいです。

今日の夜は星を見ながら、これからの事を考えていたら、時間はゆっくりと穏やかに過ぎていつて、こんな風に時が流れていく中であなたと二人で、年を重ねていたらどんなに幸せだろう。涙が出てきてしまいました。

近くにいてほしいの。

声が聞きたいの。

私の瞳を見て、「愛してる」の言葉がほしいの。

傍にいた時はこんな事いつもできたのに、今はあなたを世界一、必要で、愛してい

る私があります。

出逢った季節が近づいて、またあの日のように、空から真っ白い雪が降りてくる頃、あなたの住んでいる街、私の生まれ育った街へ帰ります。その時は、大好きなあなたの笑顔で、迎えて下さい。私はあなたに負けなくらいの笑顔で、泣かないようにあなたの所へ戻ります。

違う場所で今は生きているけれど、私はいつもあなたを感じています。

いつまでも、私の一番でいてください。

これからも、ずっと一緒に年を重ねていきますように。

小さな幸せも二人で喜べますように。

愛しています。

あなたに出逢えたことが、私の人生の中で最高に幸せな出来事ですありがとうございます。

*私の大好きな人は、実家がある栃木県に住んでいます。今年の二月の雪が降った日に初めて出逢いました。今は、私の進学の都合で離れています。